

Ed.ベンチャー 総会終了! 2021年度が始まります!!



わたしたちの「NPO 法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー」は本当に小さな教育に関する NPO です。会員からの会費や事業参加費が収入の主なもので、それこそ慎ましやかに、細々とやっていると言っても過言ではありません。しかし、そうしたわたしたちにも自負があります。それは「こだわり続けている」ということです。何に・・・? そうです、弱い立場の子どもたちに!・・・です。

不思議なことに、社会の格差はますます広がり、はっきりと貧困の姿や階層化が見えているのに、多くの人がそのことをまずいと感じているのに、残念ながら、かつ不思議なことに、それらを解消しようとする政治的な動きは見えてきません。それは、こうした状況が「是認されている」と受け取るべきなのだろうと思います。

しかし、そうした「是認された格差」のもとに生きる「弱い側にいる子どもたち」には、生まれた瞬間に「あきらめなさい」とその耳元でささやくのでしょうか。

そんなことはしたくない。少しでも「格差」を埋める努力を、その子どもが生きる時代の大人として、手を貸していきたい。そんな思いに、わたしたち Ed.ベンチャーはこだわり続けています。ですから、少々遠くても私たちは出かけます。東北の大震災の時もそうでした。もう 10 年となりましたが、あのとき毎週かよって出会っていた子どもたちも今では大きくなり、たまに連絡をくれる姿はまさしく、「たくましく」成長しています。

忘れられてしまいがちな子どもたちのすぐ横に、そっと居てあげたい・・・そんな願いを持って、多くの先生方や市民の方々とも手を取り合っていきたいと考えています。

ましてコロナの時代。コロナ後の社会は、誰のために再構築されていくのでしょうか。失業者が非正規労働者を中心に増加する中、あれだけの株高が出現することは、まったく常識では理解できません。金融経済は、「人間の」経済活動とは切り離された経済であることがはっきりとわかった出来事でもありました。「金あまりによる株高」とも言われています。「金あまり」・・・! 困窮者には 1 円も回らないお金が踊っている時代、子どもたちのためにそのお金が使われることは、ほぼないでしょう。ですから、ともに学び、そして少しでも、弱い立場の子どもたちに手を貸してあげてください。

【総会報告】

2021 年の活動に当たり、2 月 23 日(火)、ポラリス第 7 会議室でオンラインも含めた総会が開催されました。武内代表からは、新型コロナウイルス感染症が、私たちの生活に何を問いかけているかを考える必要性の挨拶がありました。

中国武漢市で発症したコロナは、またたく間に世界中に広がり、いつ収束するのか予測も不可能な状況が続いています。マスクや除菌を徹底すればよいのか、予防ワクチンの開発と摂取を実施すればなんとか乗り切れるのか、全くわかりません。毎日、東京の発生率は?、神奈川県は?、と気にしながら、誰しもがいつ自分自身も感染するのかと心配しながら日々をおくっています。

しかしコロナは、世界の、この国の、様々な矛盾を、見えづらかった矛盾を明らかにしてくれました。緊急事態宣言は雇用の喪失を生み、失業者と生活困窮者があふれています。人権人権と声高に叫んだ社会も差別を何も克服していないことも証明しました。友人が年賀状で、「まさに壮大な社会実験を見ているよう」と書いてきました。この言葉から思い出されたのは、フリードリッヒ・エンゲルスの、猿と人間の違いを、「人は自然を変革していく存在」とする説です。

私達人間は自然に対し、あまりにも傲慢に振る舞ったのではないのでしょうか。この傲慢さと、人間の限らない欲望に対する警告なのではないのでしょうか。実験だと仮定すれば、自然はど

のような結論を用意しているのでしょうか。社会実験だとするならば、私達はどのような社会を想定しなければならないのでしょうか。コロナ後の社会を想定した議論が始まりつつあります。明らかになった矛盾が、少しでも克服された社会を・・・と願うばかりです。

その後議事に入り、2020年度の活動報告、収支決算報告、2021年度の事業計画や収支予算などが議題となりました。詳しくホームページに掲載しているのでご覧ください。

【基金の会報告会】 例年ですと、総会の後に教育講演会を開催するのですが、今年は密を避ける目的からも、教育講演会はオンラインによる連続講座に切り替えて、すでに終了しているために、今年は2018年に終了した事業である「すたんどばいみー基金」を利用し、現在、社会人として活躍しているお二人からお話をお聞きしました。

一人目は、ベトナムからオンラインで参加してくれたAさんでした。Aさんは高校生の時から、外国人の子どもたちを支援する「すたんどばいみー」の活動の核として活躍していました。子どもたちと一緒に何ができるのか、常に自分に問いかけながら、活動を続けていました。大学卒業後、アメリカでの遊学経験など、長い模索の時間を過ごした後にベトナムへ渡りました。ベトナムと日本を比べて見ると、社会の空気感の違いがあるといいます。ベトナムでの生活の方が、柔らかさがあって様々なものを受け入れる。日本ではなかなかそうは感じられない。日本にいたという経験を生かすことで、会社の中でも自分の居場所があると感じている。また、コロナの関係で、フランス人のパートナーとともにスペインへの移住を考えていることなどを話してくれました。

二人目は、アルゼンチンにルーツがあるBさんでした。Bさんは、基金の会で学費を借りながらも、大学を中退してしまい、みんなからも距離を置いて、足場工事の会社で働くようになりました。しかしそこでは、働いても働いてもなかなか自分の手元にお金が残らないような仕組みになっていて、誰かが損失を出すと、みんなが出し合って補填することになっており、会社が責任をとるといったシステムはなかったと言います。夜も社長の運転手のようにただで使われ、過度の寝不足で仕事に危険を感じることもしばしばだったそうです。そうした中、思い切って会社を変わったところ、しっかりした会社で、今では貯金もできはじめ、以前とのあまりの違いに驚いたそうです。働く場所を選ぶこと、いい環境を作り出すことの大切さを話してくれました。

4～6月前半のEd.ベンチャーの学習会

新型コロナウイルス感染症の影響のなかで身につけたオンライン学習を、本年度も継続していく予定です。オンラインになって、学習会の参加者は確実に増えているので、距離が縮まったという側面があると思います。他方、やはり「対面」の良さを失わせたくないという事業もあり、ハイブリッド企画という、今後をみすえた新しい展開の学習会になっています。

問題は、参加費を集められないので、予算が縮小してきていることです。是非、会員になっていただいで、活動を支えていただきたく、お願いします。

外国人の子ども理解のための学習会 (ハイブリッド)

- 4月21日(水)19時～ 講演「外国人の子どもたちの困り感」
講師：清水睦美氏(日本女子大学)

インクルーシブな社会を目指す学習会 (Zoom)

- 5月12日(水) ●6月9日(水) ともに19時～

ビデオ視聴+ディスカッションの学習会 「多様性の学級に組み込む方法ーイエナプランに学ぶ」

理論学習会 (ハイブリッド)

- 5月15日(土)13時～ 講演「学級づくり①ー学びと居場所の空間ー」講師：柿本隆夫氏

スタディツアー (Zoom)

- 6月19日(土)14時半～ 虐待に関する事例研究会および今後の進めた方の検討



【理事の一言】「おはよう よく来たね」遅刻だけれど、とりあえず顔が見られたから一安心。「体温計ろうか？」体温計をおでこに近づけても、35℃。「手首で計ってみようか」不意を突かれたのか、何気なく出した手首の上には何本かの切り傷の線。「しまった」と思ったのか、不安そうに顔色を窺うように、こちらの心の中を覗こうとする目。ここは診察室でも、カウンセリングルームでもない、学校職員室前の廊下。新しい学習指導要領の実施…道徳の教科化…ICT教育の推進…やらなければいけないことに気づかなかったふりをして、何が大切なのかもぼんやりと分からなくなってしまうように、学校の日常が始まります。疑問に思ったことに「なんで？」と問いかけてみることから始めようと思います。(MM)